

223軌道装置を起因物とする死傷災害100事例まで（2019年）

No	年	月	発生時	死傷災害事例	年齢	事故の型	小業種	労働者規模
1	2019	3	19～20	ずい道堀削工事にて、機関車を切り離す方向へ前進させ、サイドローバーをシャトル本体より吊っておくレバブロックに緩みがあり、サイドローバーが左足甲に落下し、左足を骨折した。	44	4	30102	50～99
2	2019	5	11～12	ラインでネジのサイズを変えようとしたところ、ボルトを足場の下に落とし拾おうと足場の蓋を外し台車通路へ下りた際、自動運転中の移動式台車と足場の枠に腰を挟まれ負傷した。	55	7	11109	1～9
3	2019	5	14～15	牽引車を運転中、前方左側を走行していた自動搬送車が緊急停止したため、追い越そうとしたが、対向車線から牽引車が接近していたところを確認し、一時停止した。しばらく停車していたところに、後方左側を走行してきた別の自動搬送車が当方車両に追突し、右脇腹と腰を打撲した。	58	3	40301	100～299
4	2019	5	9～10	工場内でトラバーサーの修理中、子トラバーサーを押し親トラバーサーの元に戻すという作業をするために段差60cm下のレールにゆっくりと下りた際、レールを止めている高さ2～3cmのボルトを踏み、左小趾中節骨に挫傷を負った。	23	3	10909	10～29
5	2019	6	15～16	トラバーサーにキャブを載せ、移動中のトラバーサーを一旦逆方向に移動させ、はみ出している台車の「つの」を持って戻そうとしているときに、逆方向に移動させたトラバーサーが戻ってきて、台車の「つの」と「つの」の間に挟まれ、左足を負傷した。	43	7	170101	100～299
				工場内で、ライン上を流れる型枠の位置を検知するセンサーの折れ				

6	2019	6	15 ～ 16	が原因で型枠が通常より飛び出して止まった。その後、トラバーサにて自動で格納庫に運ばれる際、型枠の飛び出しに気付いた作業員がこのままでは型枠が格納庫に接触してしまうと考え、型枠の飛び出している部分をハンマーで曲げて回避しようと、咄嗟にトラバーサの軌道上に入ってしまった。そのため、トラバーサに引っ掛かり、右足太腿裏に挫傷を負った。	65	8	10901	～ 29
7	2019	6	17 ～ 18	ライン工場にて、生コンを打設作業中、残量確認のため投入機足場架台から目視確認中、生コンが運搬されているのに気付かず、投入機ホッパーと移動トロリー下部の間に腰を挟み、骨盤を折った。	38	7	10901	～ 99
8	2019	6	10 ～ 11	梅畑で梅拾い中、滑ってモノレールに脇腹をぶつけ、肋骨を折った。	42	3	60101	1～ 9
9	2019	7	13 ～ 14	インクラインの台車に載せたフレコンを確認中、荷台から足を踏み外して転落し、右足踵を骨折した。	33	1	10801	30 ～ 49
10	2019	11	8 ～ 9	鉱車と蓄電池式機関車の連結作業中、ハンドル操作を誤って鉱車と機関車の間に右足脛を挟まれ骨折した。	42	7	20309	50 ～ 99
11	2019	12	9 ～ 10	豚の枝肉保管庫にて、ぶら下がった枝肉の滑車の切り替えを行っているとき、他の枝肉を押して空間を空けながら切り替え作業を行っていたところ、レールから枝肉と滑車が外れ落ちてきて、避けられず左肩に滑車が当たり脱臼した。	21	4	10101	100 ～ 299

出典：[https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen\\_pgm/SHISYO\\_FND.html](https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.html)(職場のあんぜんサイト)

参考：[労働災害の分類の概要](#)

[各起因物における死傷災害100事例まで（2019年）](#)に戻る。